

小規模市町村におけるイベントを取り入れた活動による地域活性化

早稲田大学大学院 学生会員 国井浩之

早稲田大学理工学部 フェロー 中川義英

1.はじめに

今日、総労働時間の短縮、長寿化などに伴う自由時間の増大により、自分の住む住まいやその近辺といった地域での生活時間が長くなり、その空間は生活の場として見直されていく必要がある。その地に住む住民が参加し、納得のいくまちづくりをしていくことが重要である。

そのような現状を考えると、その地域に住む人々の意向が十分に考慮されたまちづくりを行っていくことが、よりいっそう必要になってくるといえる。また、少しでも多くの住民がまちづくりに参加できることによって、その効果はより大きなものになっていくと考えられる。その意味で、地域活性化のためには、住民が参加する場が必要であると考え、本研究では、まちづくりにイベントという考え方を持ち込む。本論文におけるイベントとは「地域活性化の手段・啓蒙として実施される社会実験・住民参加などの有期の行事」とであると定義する。また、そのイベントに対する活動の定義は「イベントの目的を継続させる趣旨で行われる活動」のことであるとする。

そのようなイベントの事例を参考に、イベントに対する活動の目的や活性化のためにイベントに持ち込まれている要素について明らかにするとともに、イベントの効果を考えることを目的とする。また、それが特に小規模な市町村、過疎化の進む市町村である場合についての考察を中心に、そのような市町村で行われているイベントや活動の傾向を把握する。

2.概要

地域の活性化には多くの要素があるが、本研究においては、イベントを取り入れた地域活性化を考える。またイベントは、規模の大小なども含めてさまざまだが、特に小規模な町村においてその地特有のものを材料としたまちの活性化を基本とし、まちづくりにイベントを取り込んでいくことによって活性化を図ろうとする事例について考えていくことにした。また、その活動の一部に対してのヒアリング調査を行った。

3.事例調査

3.1 事例調査結果

いくつかの事例を、表1に示す。また、形態では、先に述べた「イベント」と「活動」の定義のもと、「活動」までが含まれているかについて示している。

表1 各市町村におけるイベントの事例

市町村名	人口密度	イベントの内容・テーマ	形態
茨城県日立市	1298.6	渋滞緩和のための実験に市民が参加し、その効果を知るための日立市交通実験	イベント
神奈川県横浜市	7587.1	微弱電波を利用し、来街者に都市を案内する実験で、人々のニーズを把握	イベント
愛知県名古屋市	6594.3	空間のデザインに対し、関心を引き起こすための「名古屋国際パブリックデザインフェスタ」	イベント
広島県広島市	1496.6	景観づくりのためのアイデアを一般市民からも募集し、ひろしま街づくりデザイン賞	イベント
福岡県福岡市	8307.6	鉄道の高架化工事に際し、その事業を人々に知ってもらう「レールウォークやいん」	イベント
北海道天塩郡豊富町	10.6	自然環境保護に注目、「自転車健康都市」を宣言し、自転車まつりの開催	イベント
山形県西置賜郡飯豊町	28.9	雪国の生活体験ができるツアーや真夏の雪祭りなど「雪」をテーマとしたイベント	イベント活動
富山県山田村	53.8	パソコン教室や農業体験などを行い、村の情報化を目的とした「電腦村ふれあい祭」	イベント活動
奈良県吉野郡下北山村	10.3	村の自然を生かした観光産業の推進、三独立国の建国により会員を中心に活動	イベント活動
山口県阿武郡むつみ村	35.7	村の青年で組織されたトマトクラブの企画運営による「むつみトマト合戦」	イベント活動

※表1中の人口密度は平成7年国勢調査報告(総務庁統計局)によるものであり、単位は人/km²である。

keywords: イベント、地域活性化

連絡先: 〒169-8555 東京都新宿区大久保 3-4-1 51-15-11A Tel: 03-5286-3398 Fax: 03-5272-9975

3.2 ヒアリング調査結果

表2中の奈良県下北山村の活動に対して行ったヒアリング調査の結果、以下のことが明らかになった。

- ・活動の目的には、観光客や観光収入の増加、地域のイメージアップ、地域内での活性化、都市部との交流が挙げられたが、これ以外の部分でイベントの活動の目的としていることに、「交流の積み重ねによる閉鎖的な地域体質の改善を図る」ということが挙げられた。
- ・また、イベントやそれを中心とした活動に「ツチノコ」を扱ったことに関しては、村独自のアピールポイントが必要だと考えたからであり、立派な自然があることをアピールすることを考えている。
- ・地域の住民の参加を求めているが、このイベントを中心とした活動には費用の負担が必要であるということもあって、地域住民の積極的な参加があまり見受けられない。

4.事例調査に関する考察

表1に示したイベントの事例は、比較的有名でかつ大きな都市におけるもの、小規模な市町村におけるものの一部である。ここでのイベントの効果は、住民参加の場が与えられ、先に定義した「活動」が行われることを基本に考えた。前者の多くは、大型施設を利用したものや、公共事業を拠点にしたイベントなどである。これらは、資金面を考えてもイベントを起こしやすい状況が存在するが、小規模な市町村には難しいといえるかもしれない。しかし、これらのイベントには、住民が参加できる場が与えられている反面、「活動」の場が与えられにくいのが現状である。

後者の事例によると、その地の歴史や自然を活かした市町村独自のものや、その市町村のこだわりがイベントにおけるメインの材料となっている。特に、豪雪地帯に目を向けると、“雪”を利用したイベントは興しやすいものであると考えられ、山形県飯豊町における“雪”は、イベント以前には、厄介ものであるという見方をされていたものである。これらのものを利用してイベントにつなげるという発想の転換が必要であるということも、これらの事例から見てとることができる。また、イベントのテーマとしては、都市部や他地域との交流による地域の活性化を考える傾向にあるといえる。

そして、これらのイベントが一過性のものではなく、それ以外の期間にも活動があることが望まれる。富山県山田村などでは、その中心となるイベントを基本とした年間を通しての活動により、人々の興味・関心を離さず、それらが継続していくことの要素となっている。この点に関していえば、表1中に「イベント+活動」と示されたものも含めて、本論文におけるイベントの効果をみることができる。

また、市町村全体がイベントとその活動に関わっているものもあれば、一部の人間によるものの事例もあり、改善の余地がある。

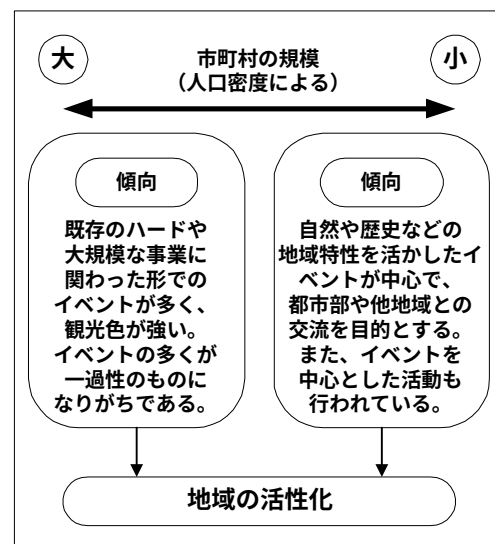


図1 市町村の規模による比較

5.おわりに

小規模な市町村、過疎化の進む市町村においては、自分たちの地域に根ざしたもの、または特有のものの有効な利用を考え、そのテーマに沿った独自のイベントを行い、それを継続させる活動があることが大切である。また、それらを住民参加のもとに行い、地域住民の興味・関心を導き出すことが有効であるといえる。また、地域活性化のための活動や取り組みは、観光業の推進や交流などの目的を明確にする必要があるといえる。

※参考文献

- 1) イベントによる地域活性化 岡本包治編著 現代生涯学習全集 8
- 2) まちづくりイベントハンドブック まちづくりイベント研究会編著 学芸出版社